ぶいが谷のお酒　　島根県

昔むかし、あるところに、よいじいさんと悪いじいさんがいました。
あるとき、よいじいさんが山の中で木を切っていると、木を切るたびにふしぎな音がしました。

ぶういぶい
ぶいが谷に酒がわく

あんまり何度も聞こえるので、じいさんは、ぶいが谷に行ってみました。すると、谷には、お酒がいっぱいわきだしていました。ひと口飲んでみると、とてもおいしくて、夢中になって飲むうちに、じいさんは、よっぱらって眠ってしまいました。
すると、どこからともなく、たくさんのさるが出てきました。さるたちは、
「おや、ここにお地蔵さまが寝ておられる。どこかにお祭りしようじゃないか」と相談して、じいさんをかついでどんどん走っていきました。
走っていくうちに、じいさんのきん玉がぶらりと下がりました。さるたちはこれを見て、

ぶらっと下がった　なぁんじゃい

といいました。じいさんは目をさまして、

お香のふくろ

とこたえました。またしばらく行くと、じいさんがおならをしました。さるたちは、

ぷうんと出たぁ　なぁんじゃい

といいました。じいさんは、すぐに、

お香のにおい

とこたえました。

やがて、さるたちは、じいさんを下ろしてすわらせ、お地蔵さまのおそなえ物をいっぱいおそなえして行ってしまいました。じいさんはそのおそなえ物を持って帰って、村の人たちに配りました。

となりの悪いじいさんは、それを聞いて、自分もそんな目にあおうと思って、ぶいが谷に行きました。そして、お酒を飲んで寝ていると、さるがたくさんやってきました。さるたちは、じいさんをかついでどんどん走っていきました。

そのうち、じいさんは、さきにおならをぷっとしてしまいました。じいさんはおかしくてくすくす笑いました。するとさるたちは、

「またきのうのように、お地蔵さまのまねをして、おそなえ物を取っていこうというんだな。悪いやつ」とおこって、よってたかって、じいさんをひっかきました。

ゆうがた、ばあさんが山へ迎えに行くと、遠くのほうからじいさんが帰ってくるのが見えました。ばあさんは、

（うちのじいさん、赤いきれいな着物をもらってきたよ）と思ってよろこびました。ところが、近づいてみると、かわいそうに、悪いじいさんはひっかききずで血だらけになっていましたとさ。

村上郁再話

資料『旅と伝説40』三元社